

I 背景・目的

- 大分大学ビジョン2040に示されたように、本学が地（知）の拠点として果たすべき役割を担い、また未来のあるべき姿を実現できるよう、学び方、究め方、働き方についての変革を段階的に実施、検証するためのDX（デジタルトランスフォーメーション）推進計画を定める。
- 本学におけるDXとは、ICT環境や先端技術を効果的に取り入れて、教育・研究・大学運営の3分野を対象に新たな方法論を創出・柔軟に変革することとし、教職協働で全学的に実施し、様々なステークホルダーに新しい価値を提供することを目的とする。

これまでの主な取組

- LMSとWeb会議ソフトウェアを活用した授業の全学展開
- 学生教育へのICT導入促進（令和3年度よりPC必携化制度開始）
- 実習系科目へのVR機器を活用したシミュレーション教育の導入
- 学内無線LAN環境の増強によるICT利用環境の充実、 etc.

II 計画概要

教育DX

学修者本位の教育への転換

「何を教えたか」から「何を学び、身につけることができたのか」への自律的学修への転換

■教育・学修データ利活用基盤の構築

学修内容の効果的な視覚化や適切なフィードバックに必要な、学修データの利活用（ラーニングアナリティクス）基盤を構築し、学生による適正な自己評価と学修到達度の向上を支援する。

■先端技術を活用した教育の総合的強化

最先端ICTを取り入れて授業コンテンツを高度化・個別最適化した教育の導入を促進する他、STEAM教育の充実、社会ニーズに合わせたリカレント教育や生涯学習、ならびに大学間連携の機会を拡充する。

■教務・学生生活支援の高密度化

履修支援、キャンパスライフ支援、健康相談等、各種学生支援に必要な対応のデジタル化を進め、学生と大学間の密な情報連携を実現する。

研究DX

戦略的研究データの共有・活用への転換

研究データの戦略的共有及び設備・機器の共用によるデータ駆動型研究の加速

■オープンサイエンス推進

研究データの管理・利活用に関するデータポリシーを策定するとともに、研究データの公開を進めるため、機関リポジトリ等の公開用プラットフォームを整備し提供する。

■データマネジメントの強化

公募型の研究資金におけるデータマネジメントプラン（プロジェクト等の規模や目的及び分野の特性等に応じたデータ管理計画）の作成及びこれと連動したメタデータの付与を支援する。

■研究DXを支えるインフラ整備

研究設備・機器の共用方針を策定・公表し、組織的なコアファシリティを確立する。

大学運営DX

デジタルな大学運営への転換

事務的処理のデジタル化による業務プロセスの変革と大学運営の高度化を促進

■デジタル化による業務の効率化

電子決裁の導入や各種申請のオンライン化など、ペーパーレスを推進し、業務のデジタル化を図り、作業効率を向上させる。

■多様な人材を包摂可能な業務環境の構築

多様でインクルーシブな労働環境の整備に向けたリモートワーク環境の充実と、チャットボットやRPAなど先進技術の導入により、業務の生産性を向上させる。

■クラウドサービスの効果的運用

高度な情報セキュリティの実現とともに、クラウドサービスの適切な活用を促進して、総所有コストの最適化を進めるとともに、災害時等の事業継続性を向上させる。

III その他

- DX推進計画の詳細な実施工程表については別途定め、予算措置については別途検討する。
- 附属病院の診療に関するDXは除く。